

## 安全データシート

## 酪酸メチル

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: 酪酸メチル
CB番号	: CB1853999
CAS	: 623-42-7
EINECS番号	: 210-792-1
同義語	: 酪酸メチル,酪酸メチル [標準物質]

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: マスキング香料、食品香料
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

## 物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
引火性・可燃性ガス	分類対象外
引火性エアゾール	分類対象外
酸化性ガス類	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性物質	分類対象外

酸化性液体 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

有機過酸化物 分類対象外

金属腐食性物質 分類対象外

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分外

急性毒性(経皮) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない

皮膚腐食性・刺激性 分類できない

眼に対する重篤な損傷性・刺激性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖毒性 分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 分類できない

吸引性呼吸器有害性 分類できない

#### 環境に対する有害性

水生環境急性有害性 分類できない

水生環境慢性有害性 分類できない

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

### 絵表示

GHS02



### 注意喚起語

危険

### 危険有害性情報

H225 引火性の高い液体及び蒸気。

### 注意書き

#### 安全対策

P210 熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

P240 容器を接地すること / アースをとること。

P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

## 応急措置

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

## 保管

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

## 廃棄

P501 内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

## 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式等)	: C <sub>5</sub> H <sub>10</sub> O <sub>2</sub>
分子量	: 102.13 g/mol
CAS番号	: 623-42-7
EC番号	: 210-792-1
化審法官報公示番号	: 2-779
安衛法官報公示番号	: 適用法令により開示が必要とされる成分はない。このセクションで言及されたH-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合：すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませる(多くても2杯)。気分が悪い場合は医師の診察を受ける。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

## 5.1 消火剤

### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

## 5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

逆火に注意する。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

周囲温度で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

## 5.3 消防士へのアドバイス

火災時には、自給式呼吸器を着用する。

## 5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

# 6. 漏出時の措置

## 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

## 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

## 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと(セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例: Chemisorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

## 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

# 7. 取扱い及び保管上の注意

## 7.1 安全な取扱いのための予防措置

### 火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

### 衛生対策

汚した衣類は替えること。本物質を扱った後は手を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 3: 可燃性液体

#### 保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

汚した衣類は替えること。本物質を扱った後は手を洗うこと。

#### 保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

飛沫への接触

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.3 mm

破過時間: 30 min

試験物質: Butoject® (KCL 897 / Aldrich Z677647, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体の保護

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色
臭い	リンゴ様臭 : Chapman (2009)
pH	データなし
-95 °C : Chapman (2009) /データなし	
102 °C : Merck (14th, 2006)	
14 °C (c.c.) : IMDG (2006)	
データなし	
データなし	
下限爆発限界: 1.6 Vol.-% 67 g/m <sup>3</sup> : GESTIS (Access on Aug 2009)	
32.3 mmHg (25 °C EXP) : Howard (1997)	
3.5 : NFPA (13th, 2006)	
データなし	
0.92 : Chapman (2009)、(0.9 g/cm <sup>3</sup> : GESTIS (Access on Aug 2009))	
1.50E+004 mg/l (25 °C EXP) : Howard (1997)	
データなし	
1.29 EXP : SRC (2009)	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	

### 融点・凝固点

-95 °C : Chapman (2009) /データなし

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

102 °C : Merck (14th, 2006)

### 引火点

14 °C (c.c.) : IMDG (2006)

### 自然発火温度

データなし

### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

### 爆発範囲

下限爆発限界: 1.6 Vol.-% 67 g/m<sup>3</sup> : GESTIS (Access on Aug 2009)

## 蒸気圧

32.3 mmHg (25 °C EXP) : Howard (1997)

## 蒸気密度

3.5 : NFPA (13th, 2006)

## 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

## 比重(密度)

0.92 : Chapman (2009)、(0.9 g/cm<sup>3</sup> : GESTIS (Access on Aug 2009))

## 溶解度

1.50E+004 mg/l (25 °C EXP) : Howard (1997)

データなし

## オクタノール・水分配係数

1.29 EXP : SRC (2009)

## 分解温度

データなし

## 粘度

データなし

## 粉じん爆発下限濃度

データなし

## 最小発火エネルギー

データなし

## 体積抵抗率(導電率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

蒸気は空気と爆発性混合物を形成することがある。

### 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

#### 10.4 避けるべき条件

警告

#### 10.5 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類

#### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットLD50値 16 g/kg(PATTY (5th, 2001))に基づき、区分外とした。

#### 経皮

データなし。

#### 吸入

吸入(ガス): GHS定義における液体である。

吸入(蒸気): データ不足で分類できない。なお、マウスLC50値 18 gm/m<sup>3</sup>/2h (12.7 mg/L/4h = 3047 ppmV/4h (RTECS (2006)))のデータがある。飽和蒸気圧濃度の90%より低いのでほとんどミストを含まない蒸気で試験されたと考えられる。

吸入(粉じん、ミスト): データなし。

### 皮膚腐食性・刺激性

データ不足で分類できない。なお、ウサギの皮膚に500 mgを24時間適用した標準ドレイズ試験において中等度の刺激性との結果 (RTECS (2006)) のデータがある。

### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

データなし。

### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。

皮膚感作性:データなし。

### 生殖細胞変異原性

データなし。

### 発がん性

データなし。

### 生殖毒性

データなし。

### 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)



ラットに致死量の経口投与により努力性呼吸、血管拡張、被毛の乱れ、筋の攣縮が見られ(PATY (5th, 2001))、ラットに25 mg/L (about 6400 ppm)を6時間吸入ばく露により協調運動消失、虚脱を呈したが、後遺症なく回復した(PATY (5th, 2001))ことが報告されている。しかし、いづれもガイダンス値範囲をかなり超えた用量での所見であり、カットオフ値との間の用量での影響については不明であり、分類できない。

#### 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

データなし。

#### 吸引性呼吸器有害性

データなし。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

データなし

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壤中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

### 12.6 内分泌かく乱性

データなし

### 12.7 他の有害影響

データなし

オゾン層への有害性

非該当

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

## 14. 輸送上の注意

#### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): 1237 IMDG (海上規制): 1237 IATA-DGR (航空規制): 1237

#### 14.2 国連輸送名

ADR/RID (陸上規制): METHYL BUTYRATE

IMDG (海上規制): METHYL BUTYRATE

IATA-DGR (航空規制): Methyl butyrate

#### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): 3 IMDG (海上規制): 3 IATA-DGR (航空規制): 3

#### 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): II IMDG (海上規制): II IATA-DGR (航空規制): II

#### 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制): 非該当  
非該当

#### 14.6 特別の安全対策

なし

#### 14.7 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類

---

## 15. 適用法令

#### 労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) その他の引火点0℃以上30℃未満のもの

#### 海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 酪酸メチル

#### 消防法

第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

#### 船舶安全法

引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1) 酪酸メチル

#### 航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) 酪酸メチル

#### 港則法

危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ホ) 酪酸メチル

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

### 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

#### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。